

アジア太平洋地球変動研究ネットワーク
環境倫理にもとづいた環境教育の
国際ガイドラインの構築に向けて

参加費
無料
(要申込)

国際シンポジウム

平成18年1月28日(土)

兵庫県立美術館ミュージアムホール

パネルディスカッション・ワークショップ

1月29日(日) 1月30日(月)

甲南大学5号館 甲南大学9号館

主催：アジア太平洋地球変動研究ネットワーク (APNセンター) / 兵庫県 / 甲南大学環境総合研究所

趣 旨

“環境教育”は、すべての学問領域に共通する課題であり、各領域をつなぐ架け橋としても期待されていますが、より効果的な役割のための国際的なガイドラインが求められています。

そこで、地球変動研究に関する自然科学の知見だけでなく、社会科学や人文科学などの統合的な「知」の観点から、アジア・環太平洋地域のネットワークを活用した環境教育のパートナーシップの確立と環境教育教材の共有化をめざすことを目的に、シンポジウムとワークショップを展開します。

第一日目は、環境倫理にもとづいた環境教育について議論するため、アジア・環太平洋諸国から先駆的な研究者、実践家による講演を行うとともに、情報・意見交換の場を設けます。

第二日目は、教材開発のプロセスやe-ラーニング(インターネット使用による遠隔授業)のデモンストレーションによるワークショップを開催します。また、「アジア・環太平洋地域における環境教育教材の共有化」につ

いて、意見交換・議論の場を設けます。

第三日目は、研究者・専門家による国際研究会「環境倫理にもとづいた環境教育の国際比較研究」を開催します。また、二日間の成果をふまえ、環境教育の国際ガイドラインを具体的に各国で運用するために必要なアジア・環太平洋地域のネットワークの役割について検討します。

本シンポジウム・ワークショップでは、教育関係者、研究者、NPO/NGO、行政関係者のほか、一般の皆様のご参加をお待ちしています。

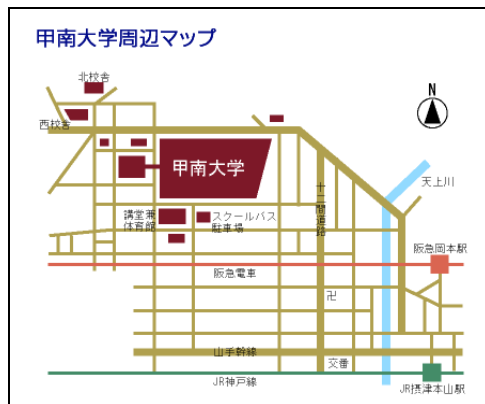
概 要

定員	200人(各日とも)
使用言語	日本語/英語
後援	環境省(予定) / 兵庫県教育委員会 / 神戸市教育委員会 / (財)地球環境戦略研究機関(IGES) 関西研究センター / (財)国際エメックスセンター / 日本環境教育学会 関西支部 / 「地球環境と世界市民」国際協会 / (財)ひょうご環境創造協会

会場案内図・
交通アクセス



甲南大学周辺マップ



1月28日(土) 会場 兵庫県立美術館ミュージアムホール

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1 TEL 078 (262) 0908

最寄り駅からのアクセス

阪神岩屋駅から	徒歩約 8分
JR 神戸線灘駅南口から	徒歩約 10分
阪急電鉄神戸線王子公園西口から	徒歩約 20分

1月29日(日)・1月30日(月) 会場 甲南大学

〒658-8501 神戸市東灘区岡本8-9-1 TEL 078-431-4341

最寄り駅からのアクセス

JR 神戸線摂津本山駅より	徒歩 10分
阪急電鉄神戸線岡本駅より	徒歩 10分

プログラム

1日目 1月28日(土) 日本語・英語同時通訳

10:00	開場/受付開始 (兵庫県立美術館ミュージアムホール)
10:30	開会挨拶: 橋詰 博樹 (APNセンター長) 兵庫県代表者
10:50	記念講演 (50分) 「日本の博物館における環境教育の展開—博物館のガイドラインをめぐって—」 中川 志郎 氏 (日本博物館協会会長)
11:40	基調講演 I (50分) 「宗教的倫理に根ざした環境教育の提案—多様な文化・宗教における共通の価値観による環境教育—」 Azizan Baharuddin 氏(マレーシア/マラヤ大学教授)
12:30	昼 食
13:30	基調講演 II (50分) 「日本における環境教育の展開と環境倫理による方向づけ」 谷口 文章 氏 (甲南大学環境総合研究所所長)
14:20	休 憩
14:30	パネルディスカッション I (90分): 環境教育の国際ガイドラインの構築—スタンダードの共有化をめざして— コーディネーター: Azizan Baharuddin 氏(マレーシア/マラヤ大学教授) パネリスト: ■ 「博物館における環境教育のスタンダード化—国際的視点から—」 中川 志郎 氏 (日本/ミュージアムパーク茨城県自然博物館 名誉館長) ■ 「環境哲学にもとづいた環境教育のスタンダード化—ディープ・エコロジーの視点から—」 Freya Mathews 氏 (オーストラリア/ラトロヴ大学教授) ■ 「化学教育による環境教育のスタンダード化—“環境”と“生命”をめぐって—」 Jariya Boonjawat 氏 (タイ/チュラロンコン大学準教授) ■ 「生物学における環境教育のスタンダード化—“いのちのつながり”をめぐって—」 中村 運 氏 (日本/汎太平洋フォーラム元理事長)
16:00	休 憩
16:15	パネルディスカッション I (続) (45分)
17:00	総 括 (17:15 閉会)

2日目 1月29日(日) 日本語・英語逐次通訳

9:00	開場/受付開始 (甲南大学 5号館 5-22 教室)
------	----------------------------

9:30	ワークショップ (A) (80分) 「カナダにおける海の環境教育教材の開発プロセス」 コーディネーター: Gloria Snively 氏 (カナダ/ヴィクトリア大学教授)
10:50	休 憩
11:00	ワークショップ (B) (80分) 「遠隔情報システムを活用した環境教育のデモンストラション e-ラーニングの展開 —」 コーディネーター: 見上 一幸 氏 (宮城教育大学教授)
12:20	昼 食
13:30	挨拶: 橋詰 博樹 (APNセンター長) 杉村 芳美氏 (甲南大学学長)
13:50	基調報告 (40分) 「カナダにおける環境教育ガイドラインと人材育成マニュアル」 Gloria Snively 氏 (カナダ/ヴィクトリア大学教授)
14:30	パネルディスカッション II (50分): アジア・環太平洋地域における環境教育教材の共有化をめざして コーディネーター: 谷口 文章氏 (甲南大学環境総合研究所 所長) パネリスト: ■ 「タイにおける環境教育教材—生命概念をめぐって—」 Jariya Boonjawat 氏 (タイ/チュラロンコン大学準教授) ■ 「オーストラリアにおける環境教育教材—環境倫理を中心に—」 Freya Mathews 氏 (オーストラリア/ラトロヴ大学教授)
15:20	休 憩
15:30	パネルディスカッション II (続) (90分) ■ 「インドにおける環境教育教材—防災教育を中心に—」 Rajib Shaw 氏 (インド/京都大学助教授) ■ 「タイにおける環境教育教材—持続可能な農業を中心に—」 [TV 会議/ATM 中継] Siriwat Soondarotok 氏 (タイ/ラジャバトブ ヲコン大学環境教育センター所長)
17:00	全体総括 (17:20 閉会)

3日目 1月30日(月) 英語のみ

9:00	開場/受付開始 (甲南大学 9号館 第5会議室)
9:30	国際研究会 「環境倫理にもとづいた環境教育の国際比較研究—ガイドラインの構築に向けて—」 (12:00 終了) ※内容については、一部変更することがありますのでご了承ください。

参加申込方法

参加ご希望の方は、下記の参加申込書に必要事項をご記入の上、FAX (078-230-8018) またはEメールにてお申込みください。
【申込締切日: 2006年1月20日(金)】
※先着順に受付を致します。定員(約200名)になり次第、締め切らせていただきますので、予めご了承下さい。
※定員超過によりご入場できない場合は、ご連絡致します。受講証の発行はございませんので、お申込みの上、当日ご来場下さい。
申込・問合せ先: APNセンター事務局 担当: 後藤 TEL: 078-230-8017 FAX: 078-230-8018 Email: rgotou@apn-gcr.org
下記にご記入の上、本紙をそのまま FAX してください。

F A X 申 込 方 法			
FAX	078-230-8018		
フリガナ 氏 名	所 属		
連絡先住所	〒		
TEL	F A X	E-mail	
参加日	<input type="checkbox"/> 28日(土)	<input type="checkbox"/> 29日(日)	<input type="checkbox"/> 30日(月) *30日はオプザバ参加のみ可能

ご記入いただきました情報は、APNセンターからの各種連絡・情報提供のために利用し、それ以外の目的では利用いたしません。